

Sawamoto Dental Office News

2017年5月号

穏やかで過ごしやすい季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？
今月のSawamoto Dental Office Newsは先月に引き続き、「抜歯」について特集してまいります。



●抜歯の後にはこんなことに気を付けて！

・鎮痛薬は痛くなる前に。

痛みが強くなると、痛み止めが効きにくくなります。「痛くなりそうかな」と思ったら、我慢せず早めに痛み止めを飲みましょう。



・帰宅後の出血にはティーバッグ。

澤本歯科では帰宅後出血が気になった時の為に、滅菌したガーゼをお渡ししていますが、ガーゼがなくなってしまってどうしても出血が気になった時、出血部位にティーバッグを2枚重ねて強めにグッと噛んで圧迫してください。止血効果があります。



・ブクブクうがいはNGです！

うがいや舌、歯ブラシで抜歯部位を触ると、傷口を守る血のかたまりが剥がれ、骨が露出しひどい痛みの原因になることがあります。お口をすすぎたい時は、お水をそっとふくむ程度にしましょう。



・運動、入浴、飲酒はお休み。

血行が良くなると、出血しやすくなったり痛みの原因になりえます。運動、飲酒は2～3日控え、お風呂はシャワー程度にしてください。



・当日の歯磨きは慎重に。

抜歯部位に直接歯ブラシを当てないように慎重に磨いてください。



※ちょっとした配慮で抜歯後の経過がだいぶ楽になります。注意事項を守ってくださいね。



●親知らずの抜歯がたいへんなのはなぜ？

骨のなかに横向きに埋まって、悪さをしている親知らずを隣の歯を傷つけないように抜くには、歯ぐきを切開するだけではなく骨を削らなければなりません。そのため、ベテランの口腔外科医が抜いても痛みや腫れが他の歯を抜くときに比べ大きくなってしまいます。



「抜くのはいやだなあ」と思うお気持ちは良く分かります。分かったうえで、それでも「抜きましょう」とおすすめするのは、理由があるのです。

・細菌や食べかすが親知らずの下に入り込むと、取り除くのが難しく不潔になりやすいため、むし歯ができてしまいます。

・親知らずの下に入り込んだ細菌のために炎症が起き、歯ぐきが腫れて歯を支える周りの骨まで失ってしまいます…など。

一生使いたい大切な第二大臼歯(親知らずの手前の歯)に悪影響を及ぼすことがあります。

[横に生えた親知らずによる悪影響]

治療してもぶり返す炎症の火種を根本から除去して、全身への影響を阻止するために行う最終手段、それが抜歯です。

歯を残すのはとても大切なことですが、抜歯を含めた適切な治療もとても大切です。深刻なトラブルが起きないよう、予防のために定期的なメンテナンスにいらしてください！

